

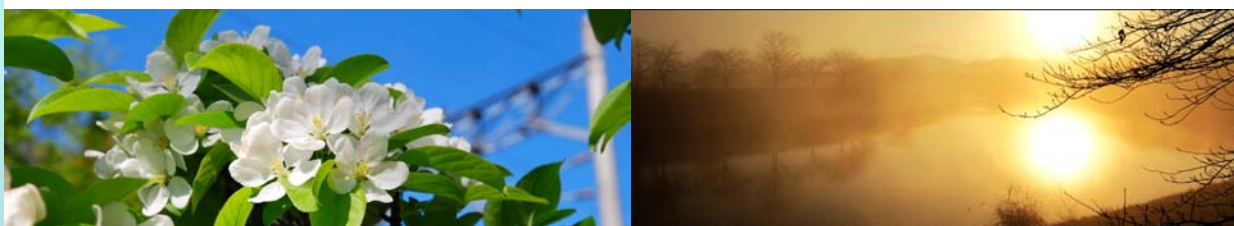


Title	地域資源戦略と観光交流による都市・田舎関係の再構築
Author(s)	敷田, 麻実
Relation	北海道大学観光学高等研究センター共同研究会「観光創造研究会」設立準備会, 「観光創造学を考える」研究会録. 2013年11月23日, 24日. 北海道大学遠友学会.
Citation	「観光創造学を考える」研究会録 / 北海道大学観光学高等研究センター共同研究会「観光創造研究会」設立準備会, 20-46
Issue Date	2014-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56569
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	conference paper
File Information	03_2shikida.pdf, 資料





地域資源戦略と観光交流による 都市・田舎関係の再構築

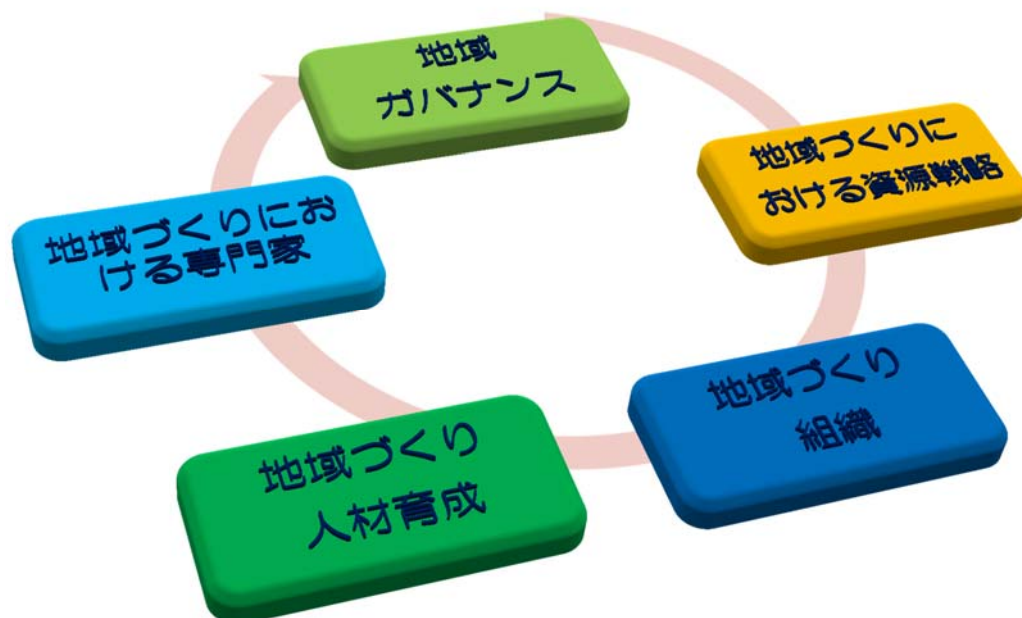


敷田麻実(北海道大学観光学高等研究センター)

発表内容

- 自分の現在の研究領域やプロジェクトに関する概略
- 観光創造学に対する考え、あるいは自らの貢献の可能性、スタンスなど
- 現在、取り組んでいる研究トピックで、特に議論したい内容

資源活用戦略に基づく統合的地域ガバナンス研究



参加しているプロジェクトなど

- 「都市と生物多様性プロジェクト」
国連大学高等研究所主催（2012-2014）
- 「観光の効果を地域社会へ還元する中間システムの研究」
科研費プロジェクト（2011-2013）
- グローバル人材育成の教育システム構築プロジェクト
学内（2013-）
- 知床世界遺産自然科学委員会（エコツーリズム検討会議）
環境省・林野庁・北海道庁（2010-）

創造とは何か

- 伊東俊太郎（麗澤大学）
「創造とは、問題を解決する、素材の新しい組み合わせ、新しい理論への変換を可能にする新たな視点の発見である」
- 恩田 彰（東洋大学）
「異質の情報や物を今までにはない仕方と結合することにより、新しい価値あるものをつくりだす過程である」
- 江川 朗（総合経営研究所）
「創造とは、きわめて異質の発想を実現した社会的成果。発想とは諸情報の変形、加工、組み合わせによる異質の意味化」
- 川喜田二郎（鎌川喜田研究所）
「なすに値する切実なものを、おのれの主体性と責任において、創意工夫を凝らして達成すること」
- 國藤 進（北陸先端科学技術大学院大学）
「ある主体にとって既知のことがらを組み合わせ、その主体にとって、ある観点からみて有用な未知のことがらを構築すること」
- 西 勝（明治学院大学）
「平凡に新しいことがら、ものが生まれること。消滅をも含め、全生物に喜ばれ、できれば定義不要にまで自然と」
- 比嘉佑典（東洋大学）
「創造とは、個人の中に、事物の中にある古い結びつきを解体し、新しい結びつきにつくりかえることである」
- 星野 匡（㈱ブランネット）
「何らかの価値を有する、新しいアイデア・思想、その表現、あるいは表現としての事物を、意図的に生み出すこと」
- 師岡孝次（東海大学）
「現実を理想に近づける活動をいう。対象は"もの"でもシステムでもよい」

日本創造学会の創造の定義 （日本創造学会HPから転載）

「創造とは、人が異質な情報群を組み合わせ統合して問題を解決し、
社会あるいは個人レベルで、新しい価値を生むこと」

【出典】高橋 誠（2002）新編創造力事典—日本人の創造力を開発する 創造技法 主要88技法を全網羅！、日科技連出版社、482p.

観光創造について

- 創造とつく単語の比較
- 環境創造？
- 知識創造？
- 価値創造？
- 不定型なものを実体化するためのシステムの存在
- 他者との相互作用による創発の存在
- プロセスの存在

Creative destructionという創造

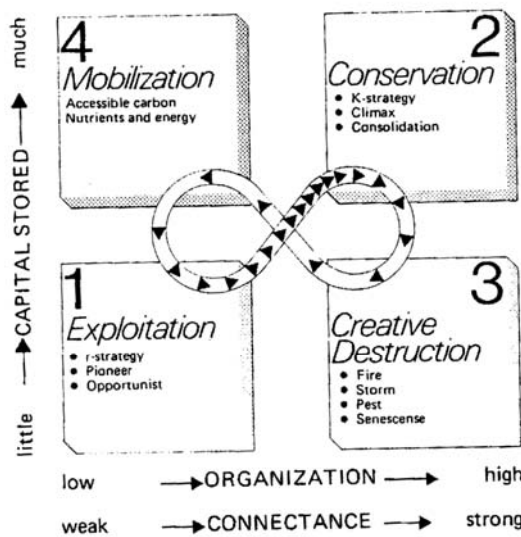


Figure 4. Diagrammatic representation of the four ecosystem functions and their relationship to amount of stored energy and capital (y-axis) and degree of connectedness (x-axis). The arrowheads show an ecosystem cycle. Interval between arrowheads indicates speed — short interval = slow change; long interval = rapid change.

Holling, C.S. (1987) 「Simplifying the complex: The paradigms of ecological function and structure」, 『European Journal of Operational Research』, 30, pp.139-146.

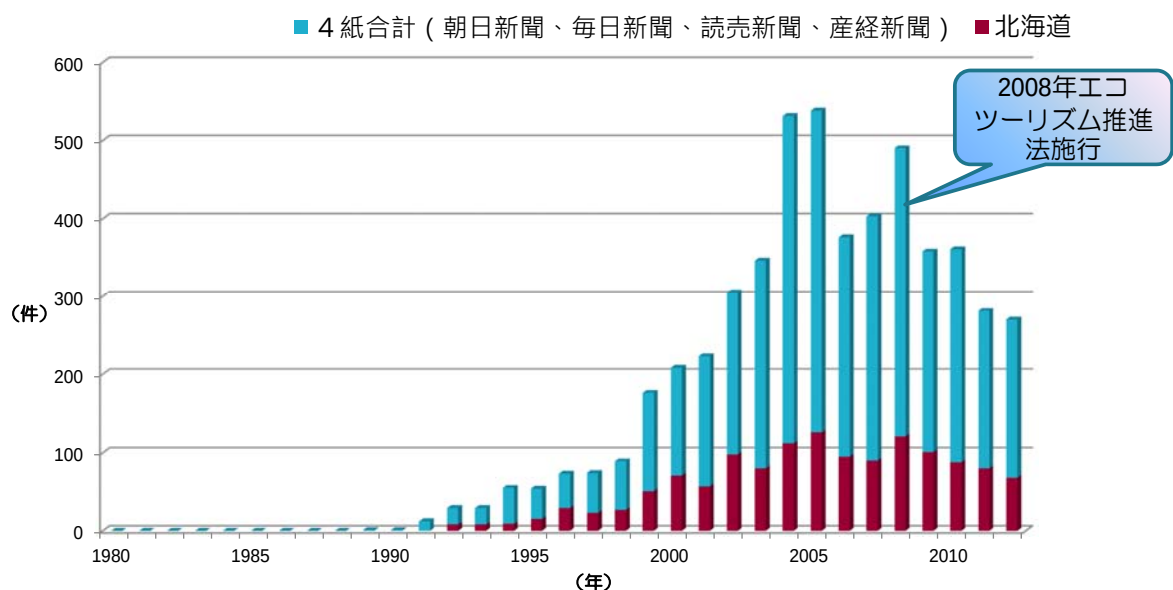
- 観光創造とは、
「観光(または地域)資源をめぐり、地域内外の組織とコミュニケーションの再編プロセス」

(生態系ではエネルギー資源をめぐり、構造化と破壊プロセス)

- プロセスの繰り返しが前提

日常化するエコツーリズム

「エコツーリズム」「エコツアー」に関する新聞記事件数



出典：日経テレコン21 より作成

※「エコツーリズム」「エコツアー」のいずれかの語を含む記事を抽出

私たちは激しく移動する

表－1 交通機関を利用した年間1人あたりの移動距離

(単位：km/人・年)

年	合計 ①+②+③	マイカー①	乗合バス②	鉄道③
1960	2358	68	336	1955
1970	4811	1548	504	2759
1980	5648	2606	355	2687
1990	7937	4529	273	3135
2000	8946	5704	213	3029
2005	8962	5683	217	3064

注) 国土交通省「陸運統計要覧」のデータより作成

マイカー＝自家用乗用車

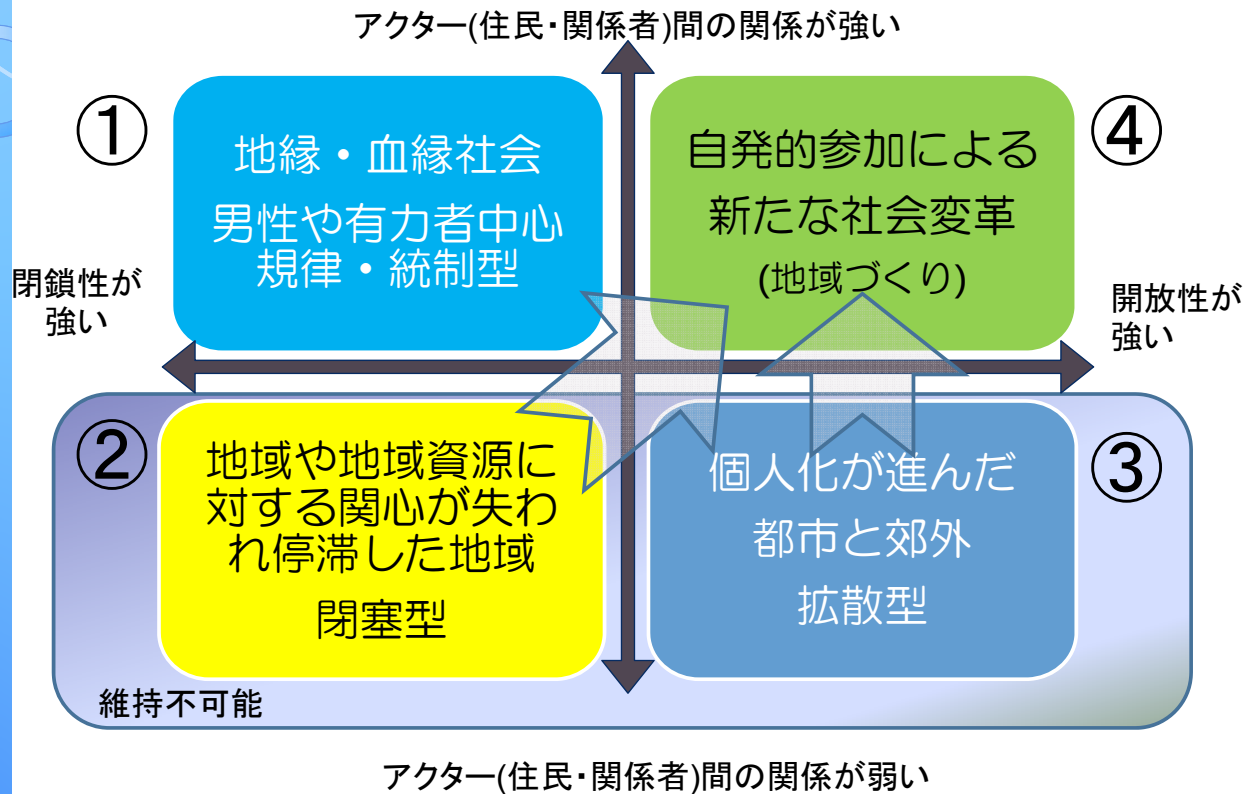
各輸送機関の総輸送人キロを総人口で除して算定

出典：新田保次(2008)「地域交通について考える～新たな交通価値と低速交通システム～」、『マッセOSAKA研究紀要』,11, pp.7-18.

地域づくりも変わった

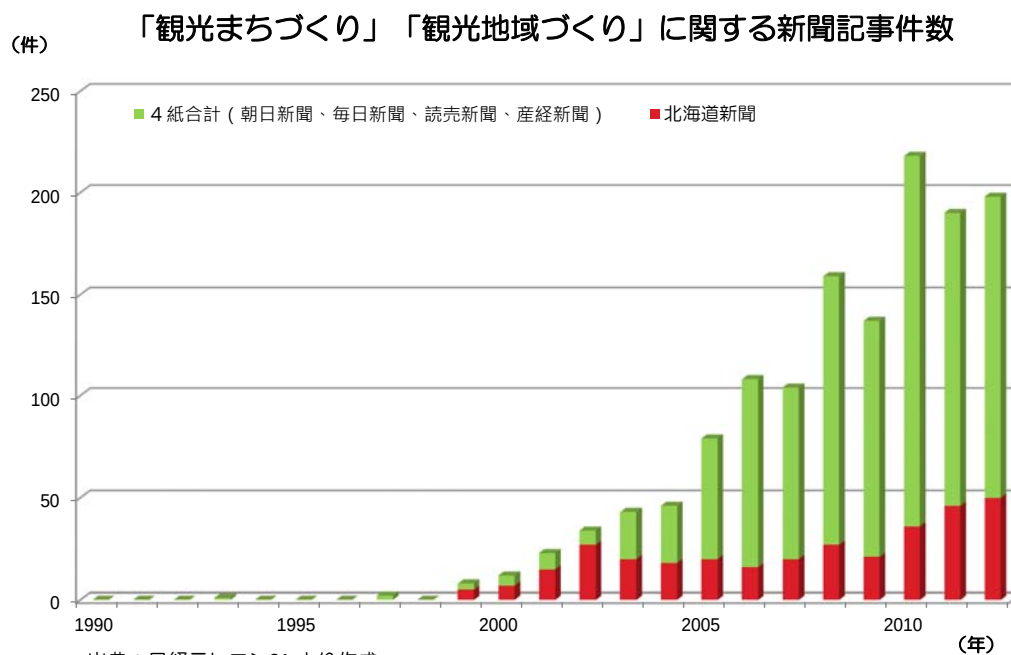
区分	地域づくりの目的	地域づくりの主体
地域振興型 (1980年代まで)	地域経済の活性化や地域内のインフラの整備、生活空間の利便性の向上	国と地方自治体などの行政組織、およびそれを実務面で実行するコンサルタント
テーマ型 (1980年代以降)	地域資源活用し、住みやすい地域を実現するための特定のテーマを掲げた、地域外との差別化	主に地方自治体と地縁組織、NPO活動やボランティア団体
統合デザイン型 (2000年代以降)	地域環境やアメニティも含む地域社会の充実と個人の生活の質向上を統合的にデザインする	地方自治体とNPO、企業(社会的企業なども含む)など、多様なアクターや組織の対等な参加による協働、ガバナンス

地域の構造が変わってきている



数田麻実・森里昌之・中村壯一郎(2012)「中間システムの役割を持つ地域プラットフォームの必要性とその構造分析」、『国際広報メディア・観光ジャーナル』,14, pp. 23-42pから転載。

観光地域(まち)づくりの拡大



出典：日経テレコン21より作成

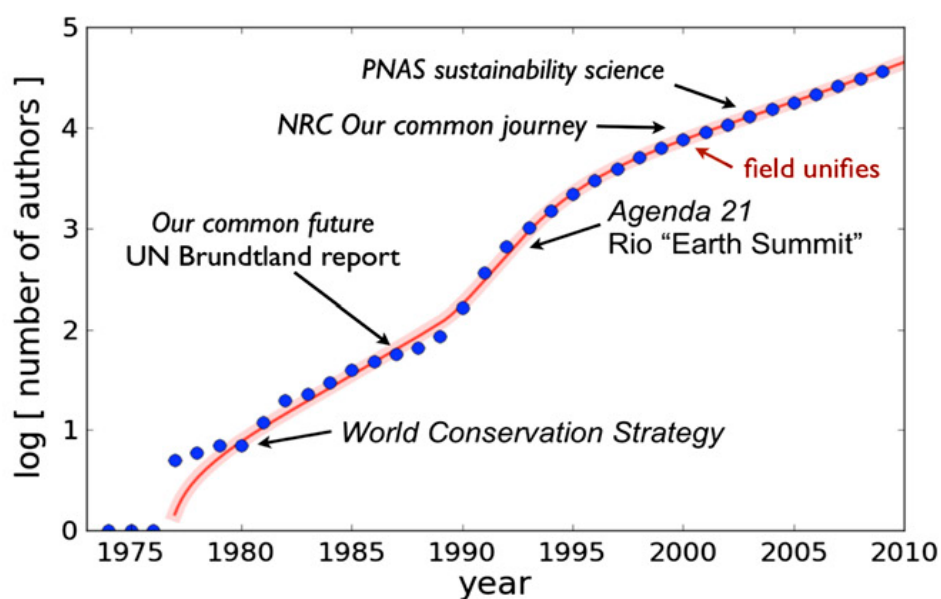
※「観光まちづくり」「観光地域づくり」のいずれかの語を含む記事を抽出

観光地域づくりとは？

- 「観光を地域課題の解決手段として用いる地域づくり」
 - 望ましい地域を維持してゆくための活動
 - 観光という手段を用いて行う活動
 - 行政だけでなく、地域住民やNPO・企業など多様な地域内外の関係者が主体的に参加する活動
 - 活動やサービスの効果を考え、地域課題解決を実践してゆくプロセス
 - =「地域活性化」「地域(まち)おこし」「地域再生」



持続可能性を考えてはいるが



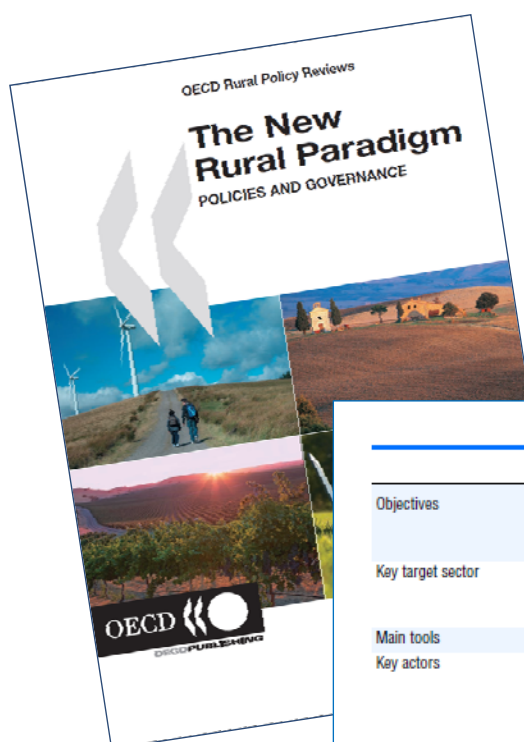
世界の3.7万人の著者の2万本の論文の分析
持続可能性に関する論文数は8.3年で倍になっている
1980年代後半から発表数が伸びた

都市の人口増加と機能拡大

- 世界の都市人口は50%を超えた
 - 1950年には30%だった
 - 日本を含む先進各国では80%近い
- 毎日17万人が都市に流入する
- 都市人口が2倍になると、都市機能は15%増加する
 - 平均給与、地域GDP、レストラン数など都市機能は15%増加する
 - 一方、犯罪も15%増加する

Bettencourt, L. and West, G. (2010) 「A unified theory of urban living Nature」, 『Nature』, 467 (7318), pp. 912-913.
 グラットン＝リンダ (2012) 『ワーク・シフトー孤独と貧困から自由になる働き方の未来図(2025)』, プレジデント社, 386p.

新たな田舎： New Rural Paradigm



- OECDカ国の土地の75%が田舎
- そのうちの96%が農地
- しかし、農業就業者は全体の13%
- そして、田舎の総生産の6%しか担っていない

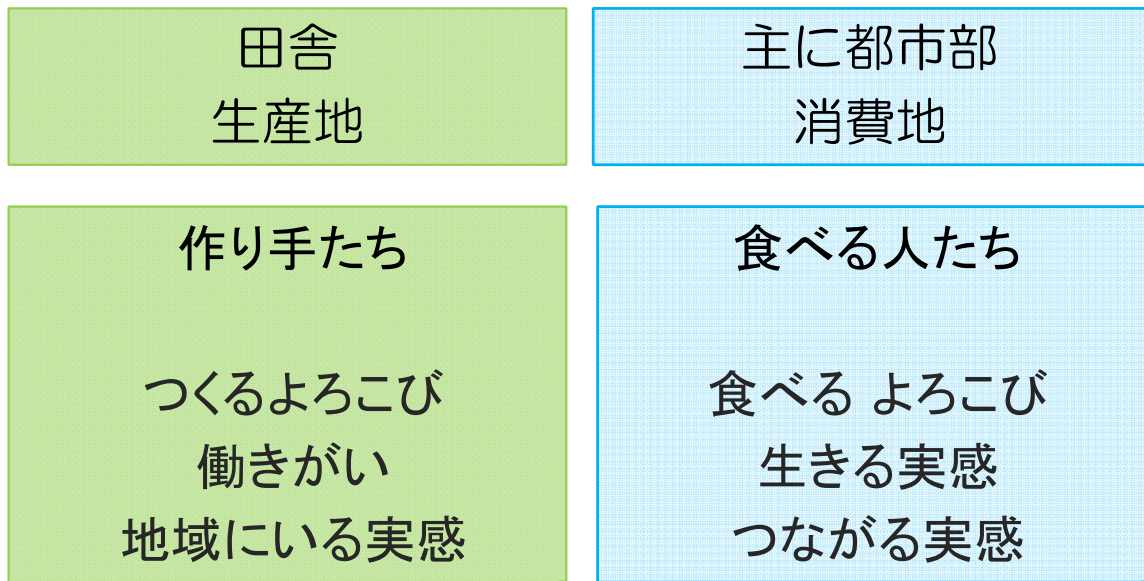


Table 0.1. The new rural paradigm

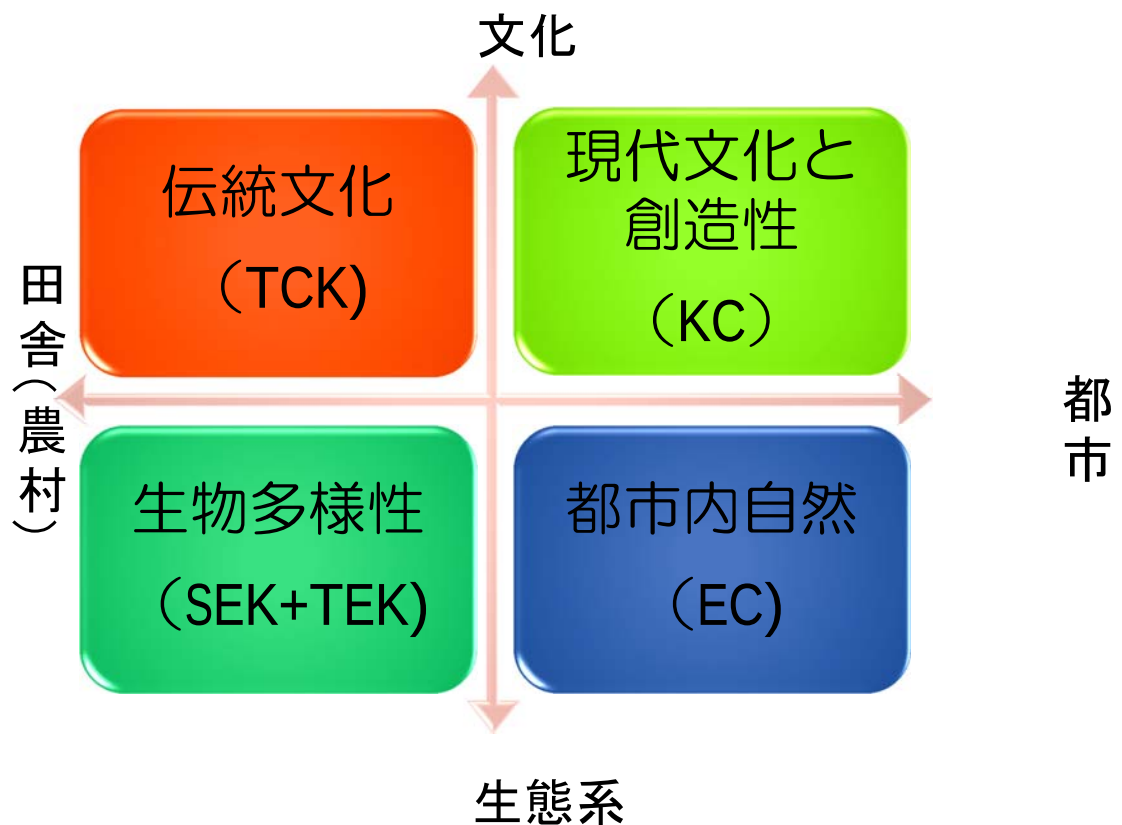
	Old approach	New approach
Objectives	Equalisation, farm income, farm competitiveness	Competitiveness of rural areas, valorisation of local assets, exploitation of unused resources
Key target sector	Agriculture	Various sectors of rural economies (ex. rural tourism, manufacturing, ICT industry, etc.)
Main tools	Subsidies	Investments
Key actors	National governments, farmers	All levels of government (supra-national, national, regional and local), various local stakeholders (public, private, NGOs)



作り手と消費の分離 (disconnectedness)



Horlings, L.G. (2012) 「Place branding by building coalitions; lessons from rural-urban regions in the Netherlands」, 『Place Branding and Public Diplomacy』, pp.295-309.



SEK=Scientific ecological knowledge TCK=traditional cultural knowledge
TEK=traditional ecological knowledge KC=knowledge creation EC=ecosystem creation

用語の定義

- 生態系とは

- 無機的環境と生物群集の総体で、エネルギー流によって特徴付けられる栄養段階や物質循環がつくりだす自然系

『生態学事典』, 巖佐庸・菊沢喜八郎・松本忠夫・日本生態学会編, 共立出版, 東京都, 682p.

- 文化とは

- 文化とは社会或いは社会集団の精神的・物質的・知的・感情的特性の組み合わせであり、芸術・文学に加えて生活様式・共生の仕方・価値体系・伝統・信念が含まれる

(「文化の多様性に関するユネスコ世界宣言」第31回ユネスコ総会採択 2001年11月2日、於パリ)

用語の定義

- 生物多様性

- すべての生物の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む

(生物多様性条約 第2条)

- 文化多様性

- 集団及び社会の文化が表現を見い出す多様な方法をいう

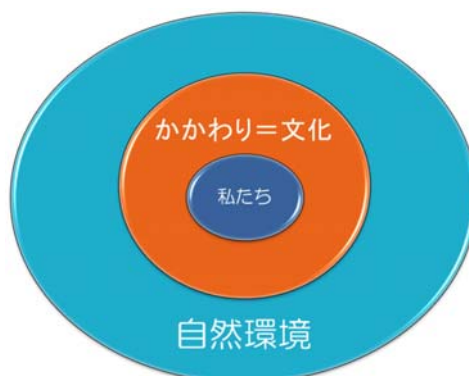
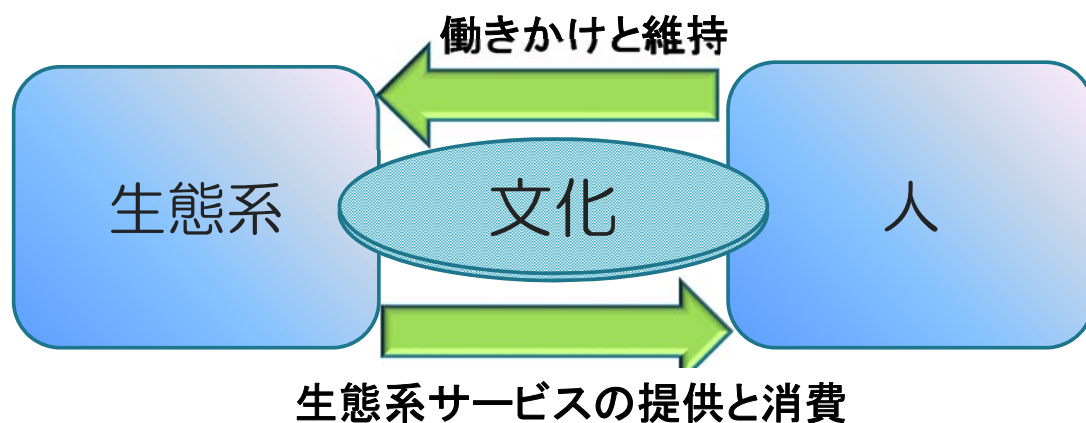
(文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約、第4条第1項 2005年採択)

田舎が担う生態系サービス

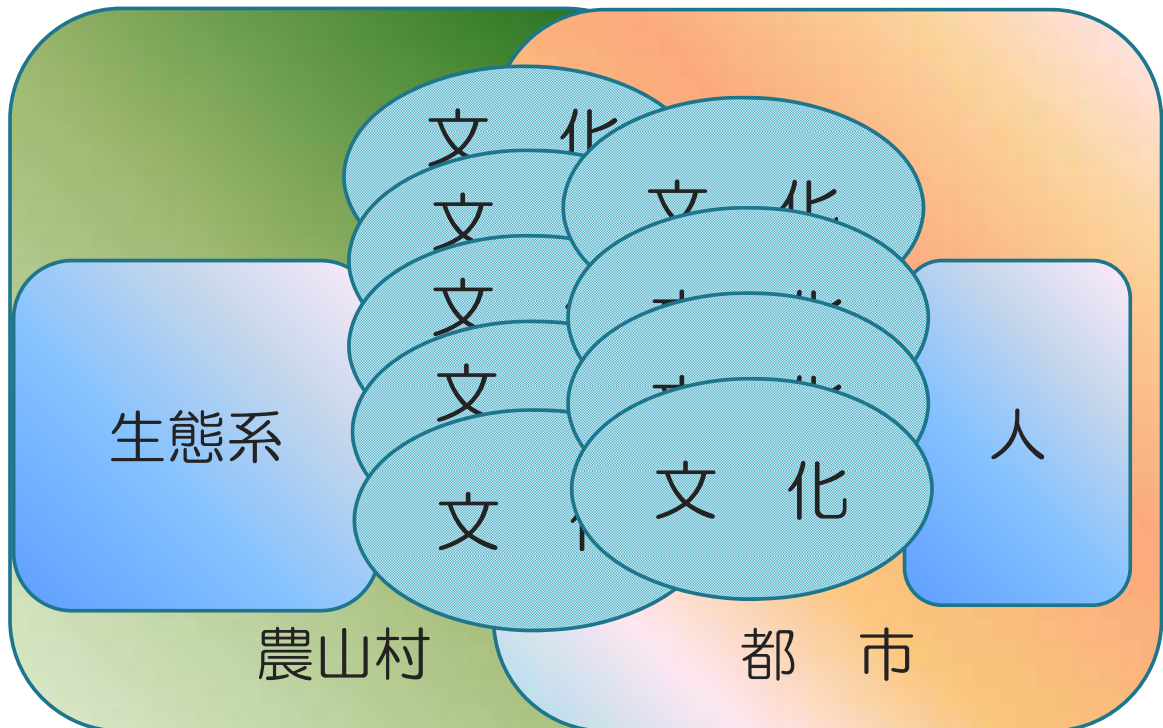


Millennium Ecosystem Assessment(2007)『国連ミレニアム エコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』, Millennium Ecosystem Assessment編, 241p.

生態系とのかかわりが文化を生む

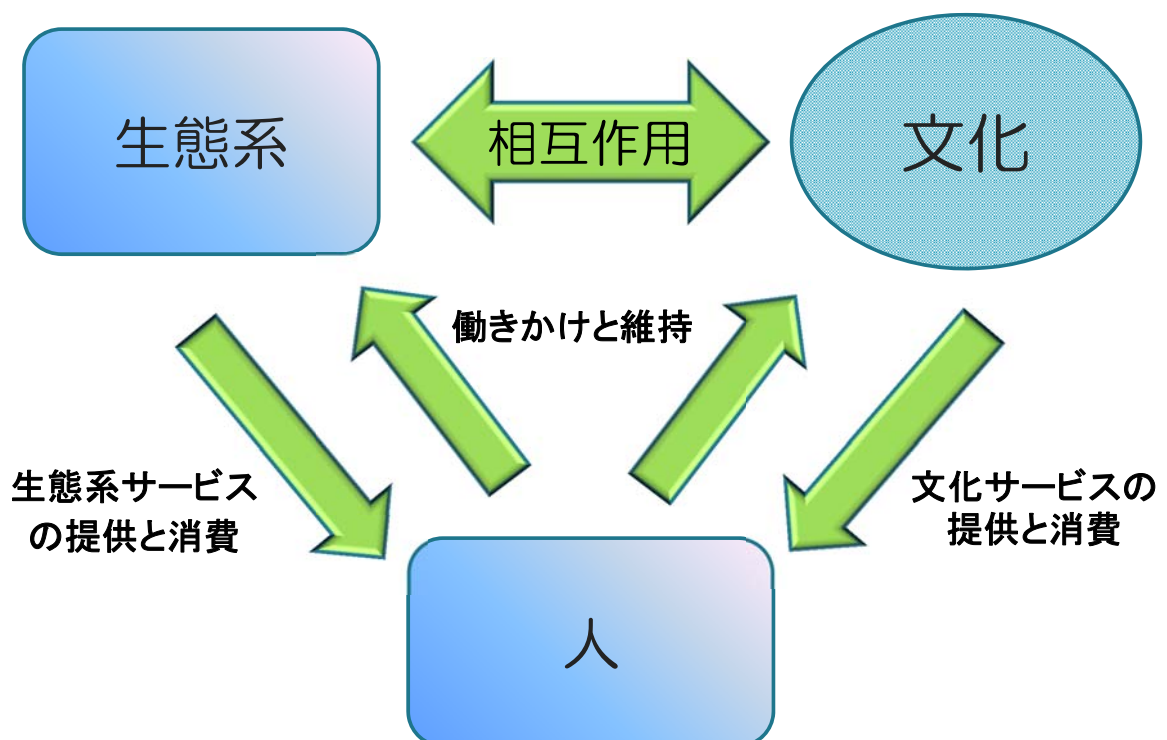


文化の相互交流から新たな文化が生成



都市では、文化交流から新たな文化が生成し、自然環境がなくても文化が効率的に生み出されていく

文化も自然環境と同じく対象化される



生物文化多様性への言及

- 1988年にブラジルのベレンで行われたInternational Congress of Ethno biology における宣言文
 - 宣言では「biological and cultural diversity」として表現された
- 2010年6月 International Conference on Biological and Cultural DiversityのWorking Document(モントリオール)
- 「Biocultural diversity as the total sum of the world's differences, no matter what their origin」

Loh and Harmon (2005)

- Biocultural diversity (BCD) is the total variety exhibited by the world's natural and cultural systems

Harmon and Loh (2004)

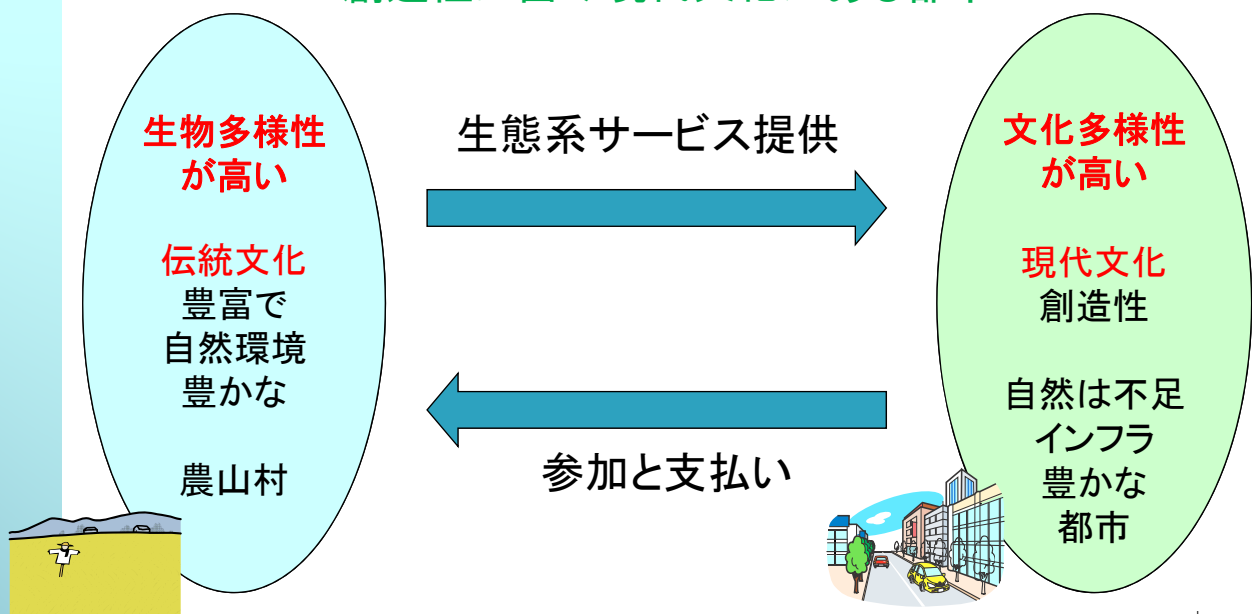
Harmon, D. and Loh, J. (2004) 『A global index of biocultural diversity』, 80p.
Loh, J. and Harmon, D. (2005) 『A global index of biocultural diversity』, 『Ecological Indicators』, 5, pp. 231-241.

提供者と消費者の関係で満足か

自然環境が豊富で伝統文化がある農山村

×

創造性に富み現代文化がある都市



観光でなぜ生物文化多様性？

- 生態系と文化を橋渡しする交流
- 都市と田舎に分離したものを再結合
- 伝統文化だけではなく現代文化に注目

【課題】

- 地域資源管理をどのように進めるか
- 社会(地域)と個人(都市)のニーズの調整
- 自然か開発かという難問

地域資源の高度利用と観光

直接利用

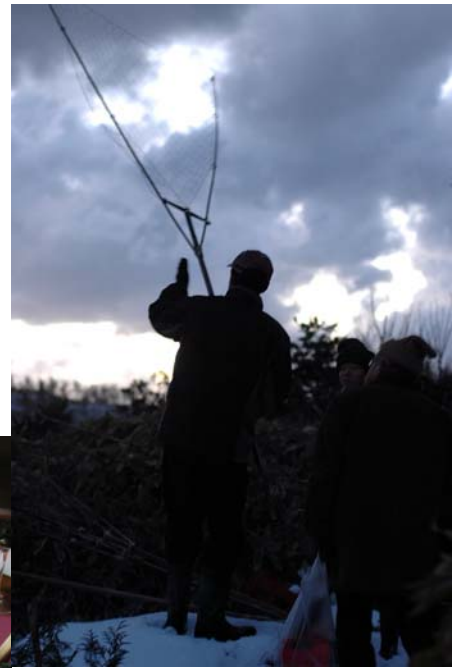
- 地域にある資源をそのまま利用(消費)する。
- 【例】 コーヒーを買って飲むためにスタバに入る

イメージ利用

- 地域にある資源のイメージだけを利用する。
- 資源は直接消費せずに、その意味だけをイメージに変換して利用する。
- 【例】 コーヒーの味より、スタバの雰囲気を楽しむ

背景の利用

- イメージを別の目的のための背景として利用する。
- 目的がないと利用しない。目的が変わると入れ替え可能である。
- 【例】 スタバが登場する恋愛小説



伝統料理も

生々しい調理プロセスがあるはず



避けられない「切り身化」と対応戦略

- 【生身】

生態系や文化は生身として地域に存在

- 【切り身】

その部分だけを取り出して観光対象にする

鬼頭秀一(1996)『自然保護を問い直す：環境倫理とネットワーク』,筑摩書房, 254p.

- 地域資源の複雑化

- 複雑な承認が必要(例：地域「官僚」主義の再導入)

- 地域資源のネットワーク化

- 土地と切り離せなくする(例：食文化、ワインツーリズム)

- 地域資源を不定形化する

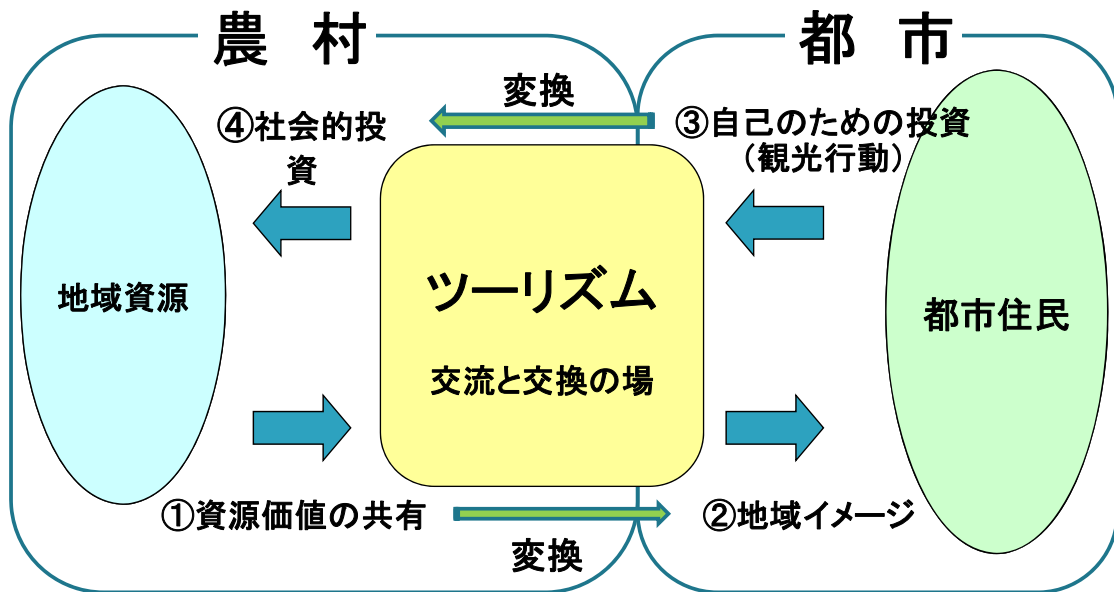
- わかりにくい設定にする(例：慰霊祭など祭事の設定)



慰霊祭で資源を不定形化



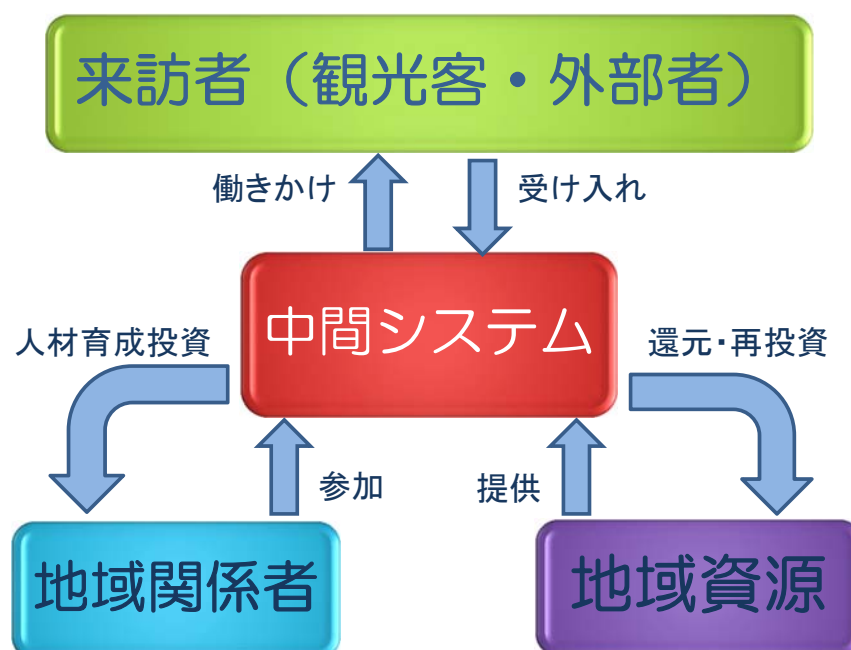
観光による 自己実現と地域社会のニーズの調整



上記の「中間システム」を含むモデルは、敷田 麻実・木野 聡子・森重 昌之(2009)「観光地域ガバナンスにおける関係性モデルと中間システムの分析ー北海道浜中町・霧多布温原トラストの事例からー」、『地域政策研究』,(7),pp. 65-72pから転載し一部改変し作成した。

橋本努(2007)『自由に生きるとはどういうことかー戦後日本社会論』, 筑摩書房, 東京都, 269p.

地域資源戦略と人材育成の関係



END



北海道大学観光学高等研究センター 敷田麻実
ホームページのご案内

<http://www.cats.hokudai.ac.jp/~shikida/>

「敷田」で検索すると見つかります

参考および引用文献

浜野保樹(2003)『表現のビジネス』,東京大学出版会,322p.

橋本努(2007)『自由に生きるとはどういうことか-戦後日本社会論』,筑摩書房,東京都,269p.

佐藤仁(2008)「今、なぜ「資源分配」か」,『資源を見る眼—現場からの分配論』,佐藤仁編,東信堂,東京都, pp.3-31.

敷田麻実(2010)「援農という希望」,『東白川都市交流促進事業 農的暮らしセミナー実績報告書』,pp. 19-24p.

敷田麻実(2011a)「ボランティア・ツーリズムで地域づくりを支える仕掛け」『新たな地域と都市の連携による地域活性化の実現を！-ボランティアツーリズムによる箱根・小田原・足柄地域の活性化の可能性を探る』発表資料.

敷田麻実(2011b)「交流による持続可能な地域資源戦略—都市と地方の新たな関係性構築は何を生み出すか」,『第73回全国都市問題会議論文集』,pp. 160-166p.

敷田麻実・森重昌之・中村壯一郎(印刷中)「中間システムの役割を持つ地域プラットフォームの必要性和その構造分析」『北海道大学国際広報メディア・観光ジャーナル』14.

敷田 麻実・木野 聡子・森重 昌之(2009)「観光地域ガバナンスにおける関係性モデルと中間システムの分析—北海道浜中町・霧多布湿原トラストの事例から—」,『地域政策研究』,(7),pp. 65-72.

依田真美(2011)「ボランティアツーリズム:「機会」という無形資源についての考察」『第10回記念全国研究大会(北海道第5分科会「地域における観光資源の活用とマネジメント」分科会報告)』.